

〈教育相談〉

チーム援助・連携による開発的教育相談の工夫 —教育相談の知識や技能を高める職員研修を通して（第1学年）—

浦添市立港川中学校教諭 屋富祖 貴 子

I テーマ設定の理由

中学校新学習指導要領第1章総則第4「生徒の発達の支援」の1「生徒の発達を支える指導の充実」の（1）に「教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること」「集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により、生徒の発達を支援すること」が示されている。学級経営が教師と生徒または生徒同士の人間関係の構築の大きなカギを握っており、学級全体を引っ張る「リーダー性」と子どもたち一人ひとりとの「心のふれあい」が教師に求められていることだといえる。

学級には学業・友人関係・家族関係・部活動などを原因とする様々な不安や悩みを抱えた生徒がおり、担任はいじめなどの問題行動や不登校に発展する生徒もいることを危惧しながら、日々学級経営を行っている。「平成29年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）」によると、沖縄県の中学校における1,000人当たりの不登校生徒数は全国で4番目に多く、小学校児童においては全国で2番目に多く、不登校予防支援は本県の教育課題の1つとなっている。小中学校の不登校の要因については、全国で約5割、沖縄県では約3割を「不安感や学校における人間関係」が占め、浦添市立港川中学校（以下「本校」）においても同様の理由で欠席が増え不登校になる状況を経験してきた。また、本校が5月に行った「i-check」では、「本当につらいことがあったとき、それを家の人のだれかに相談できますか」「本当につらいことがあったとき、それを学校の先生に相談できますか」の質問に、1学年の生徒の肯定率がともに全国比で10.0ポイント下回っており、身のまわりの大人に対して自分からはなかなか相談できない実態がわかった。

そのような状況に対し、私達教師は日々の学校生活の中で生徒を見取り、問題が深刻化する前に子どもたちのサインをキャッチできる予防的な教育相談を意図的に行う必要があり、教育相談を通して子どもの良さを引き出し認めることで生徒と教師間の望ましい人間関係づくりが育成され则认为る。さらに、本県の「学校教育における指導の努力点（沖縄県教育委員会）」も踏まえ、「開発的な教育相談」を特別活動に取り入れることで、子どもたちの心のエネルギーが充足され、自己表現力や問題解決力などの社会的能力も育まれ、そのことが不登校予防支援にもつながると考える。

予防的・開発的教育相談によって得られる安心感や充実感、ふれあいや支え合いは本来、普段の学校生活における学級担任のリーダーシップのもとで育まれるものである。しかし、経験の浅さやノウハウがわからないなど、学級をどうリードすればよいのか、生徒とどう接したらいいのか日々悩んでいる教師や、教育相談に関する活動の時間が思うようにとれず、信頼関係を深める機会を逃している教師も少なくない。生徒指導提要では「実践に裏付けられたアセスメントやコーピングなどに関する知識と技術の両面が大切」で「これらをバランスよく磨くことが、教員研修では必要」であり、「教育相談体制の充実のために、すべての教職員の資質向上が図られなくてはならない」と述べられている。教育相談に関する知識と技術の両面を磨くことのできる職員研修がすべての教師に必要であり、職員同士がチームとなって実践し取り組んでいくことで、生徒理解への大きな力になると考える。

そこで本研究では、子どもたちとのより深い信頼関係や子どもたち同士の人間関係を築くため、1学年で開発的教育相談の知識や技能を高める職員研修を行い、その研修にもとづいた授業や取組を1学年全学級において共通実践する教育相談の体制をつくりたいと考え、本テーマを設定した。

〈研究課題〉

第1学年において、開発的教育相談に関する知識や技能を高める職員研修およびその研修にもとづいた一斉授業等の共通実践を行う教育相談の体制づくりについて研究する。

Ⅱ 研究内容

1 教育相談について

学校教育相談について、日本学校教育相談学会刊行図書編集委員会編（2006）は「教師が、児童生徒最優先の姿勢に徹し、児童生徒の健全な成長・発達を目指し、的確に指導・支援すること」と定義しており、「学校における教育相談には、『問題解決的教育相談』『予防的教育相談』『開発的教育相談』という3つの機能が含まれている」と示している。

春日井敏之（2011）によると、『問題解決的教育相談』とは、いじめ、不登校、暴力、トラブルといった課題を抱える子どもに対して、解決を図るための指導・支援、『予防的教育相談』とは、欠席や遅刻、学習意欲の低下、些細なトラブルが目立つなど、日常生活のなかで気になる子どもに対して、不適応状態に陥らないようにするための指導・支援、『開発的教育相談』とは学級、学年などのすべての子どもに対して、キャリア・ガイダンス、ソーシャルスキル・トレーニング、構成的グループエンカウンター、ピア・サポートなどを通して行う人間関係・信頼関係の形成や人としてのあり方・生き方などにかかわる心理教育的指導・支援」と述べている。

教師はこの3つの教育相談をうまく使い分け、子どもたちに接し、指導・支援することが大切だと考える。

2 教育相談で活用できる手法

生徒指導提要では、開発的教育相談で活用されるグループアプローチや手法として、グループエンカウンター、ピア・サポート活動、ソーシャルスキルトレーニング、アサーショントレーニング、アンガーマネジメント等が挙げられており、「これらは、教育相談に必要な人間関係を養うのみならず、狭い意味での生徒指導の手法でもある・・・（中略）実施に当たっては各教育活動の特質を考慮して、授業の中で実施したり、授業以外の活動として実施したりするなどの工夫が求められる」と述べられている。

これらの活動は所要時間が5分～10分程度の短時間で実施が可能な活動もあり、授業の導入部分で行ったり、朝の学級活動（以下「学活」）や帰りの学活など、短学活の時間に行うことも有効だと考えられる。

3 構成的グループエンカウンター（Structured Group Encounter）

（1）構成的グループエンカウンターとは

「エンカウンター」とは「出会い」という意味であり、春日井敏之・懸川武史（2011）は「構成的グループ・エンカウンターとは、さまざまなエクササイズを遂行しながら、自己開示によって温かな人間関係を形成し、心と心のふれあいを深めるなかで、自己理解、他者理解を進め、自己変容、自己成長を図ろうとするグループ体験」と述べている。

國分康孝（1981）は「エンカウンター（ホンネとホンネのふれあい）するとは、①ホンネを知る（自己覚知）、②ホンネを表現する（自己開示）、③ホンネを主張する（自己主張）、④他者のホンネを受け入れる（他者受容＝傾聴訓練）、⑤他者の行動の一貫性を信じる（信頼感）、⑥他者とのかかわりをもつ（役割遂行）、ということである」と述べ、構成的グループエンカウンターを体験することは、以上の6つの体験をすることを示している。

これらのことから、構成的グループエンカウンターはリレーション（人間関係）づくりに最適なグループアプローチといえる。学級担任は学級の実態に合わせ、子どもたちに6つの体験の中からどれを体験させたいのかを考え、どのエクササイズが適しているのかをしっかりと見極め、選定し、計画的・継続的に行う必要がある。

- (2) 構成的グループエンカウンター（以下「S G E」）の進め方
まず、リーダーとなる人（担任など）がねらいを伝え、方法を説明したりやってみせたりする（「インストラクション」）。その後「エクササイズ」（課題）を行い、エクササイズを通して気づいたことや感じたことなどをお互いに振り返りながらグループで分かち合う（「シェアリング」）。シェアリングを行うことで自己開示や気づきが生じ、成長へとつながる。また、気づきを促すよう手助け・声かけなどを行う「介入」も必要である（図1）。

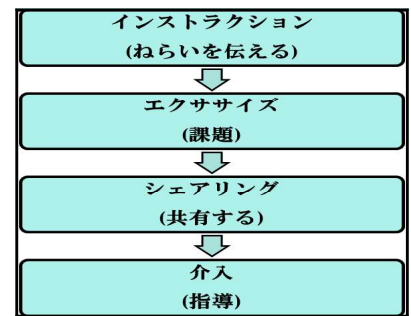


図1 SGEの進め方

4 ソーシャルスキルトレーニング(Social Skill Training)

(1) ソーシャルスキルトレーニングとは

石黒康夫・星雄一郎（2018）は「ソーシャルスキルとは、『よりよい人間関係を築くために必要な能力や技術』のことで、「子どもたちが学校の中で、上手に対人関係や集団生活を営むために必要な能力であり、将来、社会に出たときのためにも身につけておきたいスキル」であり、「このようなスキルを身につけるためのコツを学び、状況に応じて使えるようにすることを『ソーシャルスキルトレーニング』」であると述べている。また、「応用行動分析学では何らかの問題行動があった場合、その原因を性格や能力、やる気などではなく、行動の過程に見つけ、改善策を立て」るが、「ソーシャルスキルトレーニングも同じで、人とうまく人間関係が築けないのは、その人の内面に原因があるのではなく、必要なスキルがまだ身につけていないからだと考え」、「スキルさえ身につけられれば、誰もがよい人間関係を築ける」と述べている。

少子化・核家族化が進んだ現在、地域社会に代わり、あいさつをする・聴く・話すなど、生活していく上で必要なスキルを子どもたちに学ばせる場として学校が大きな役割を担う。中学校でも人間関係でトラブルを起こす生徒が見られるが、「どうして改善されないのだろう」と子どもたちの行動や自分の指導力をマイナス思考で捉えるのではなく、「子どもたちにスキルをつけていこう」とプラス思考で捉えることが大切であると考えます。

(2) ソーシャルスキルトレーニング（以下「S S T」）の進め方

最初にどんなスキルについて学ぶのか目的を伝える（「インストラクション」）。次に教師または子どもに協力してもらい良い例や悪い例の実演を手本として見せ（「モデリング」）、実際に2人一組やグループになって交代で子どもたちに練習させる（「リハーサル」）。練習の後にはお互いで感想や意見を言い合うことも必要である。最後にトレーニングの振り返り（「フィードバック」）として自己評価やトレーニング全体の感想を確認する（図2）。

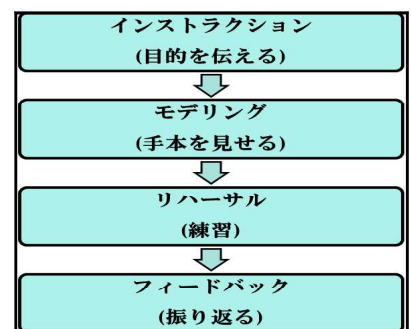


図2 SSTの進め方

5 教師同士のチーム援助・連携

(1) チーム援助・連携の促進

水野治久（2011）は「教師の被援助志向性はそれほど高くない」と述べており、その理由として「それは、援助を求めることで、自分が『子どもの指導がうまくできない』『担任として役割が遂行できていない』という教師としての自尊心を脅かすから」だと述べ、「教師のチーム援助を促進するためには、教師の被援助志向性という個人的な要因とともに『教師一人ひとりの意欲が大切にされており、各自の個性を尊重し、発揮し合う形でよくまとまっている職場である』『教育実践や校務分掌に関する教師間の多様な意見を受け入れて、みんなで腹を割って議論できる雰囲気である』などの協働的な職場雰囲気が醸成されることが重要である」と述べている。

子どもたち一人ひとりの自尊心を大切にし、高めていくのが教師の役割であるように、教師自身もお互いの自尊心を高める関係性をつくることで、教師集団として協働的な雰囲気をつくり出し、そのことが子どもたちの力をさらに伸ばすことにつながると考える。

(2) チーム援助・連携の環境づくり

水野は「連携することが当たり前になるような学校づくりが必要」であり、「チーム援助を導入する土壌というものがある」、「個人的に親しくない教師とも、ある程度冷静に話ができる土壌が重要である」と述べ、チーム援助を導入する一番よいタイミングとして、「教師集団に危機感や目標が共有されたときである。教員同士が仲良くなるのではなく、職員同士が同じ目標を共有することが大切である」ことを挙げている。「こういう子どもにしたい、こういう学年にしたい」ことと、「教師の思いを一つにする」ことがチーム援助・連携を進めていく上で一番大事であるといえる。

また、水野は「学級の垣根を低くし、連携しやすい土壌をつくることが重要」で「学級経営は担任を基本としながらも担任以外の教員も学級に入ることを奨励する」とし、複数の目で子どもを見るメリットとして「子どもが立体的に見えてくる」「学級の垣根が低くなると教員同士が子どもの援助をめざして前向きな情報交換ができるようになる」と述べている。

ほとんどが学級担任に任されている小学校と比べ、中学校は学級担任・副担任・各教科担任がおり、複数の教員が子どもたちを見ることができるという利点があり、チーム援助・連携しやすい環境であるといえる。

Ⅲ 研究の実際

1 実態把握と分析

対象を1学年担当職員（14名）、1学年生徒（231名）とし、各種アンケートを実施し、実態把握を行った。

1学年担当職員には「教育相談に関する意識調査」と「チーム1学年の取り組みに向けてのアンケート」（ともに回収率100%）を行い、1学年生徒には「充実した学校生活を送るためのアンケート」（回収率94.4%）を行った。

(1) 1学年担当職員対象のアンケート結果

「開発的教育相談について説明できる」という質問について、約7割の職員が否定的（「あまり説明できない」または「説明できない」）な回答をしており、開発的教育相談について、理解を深める必要性を感じた（図3）。

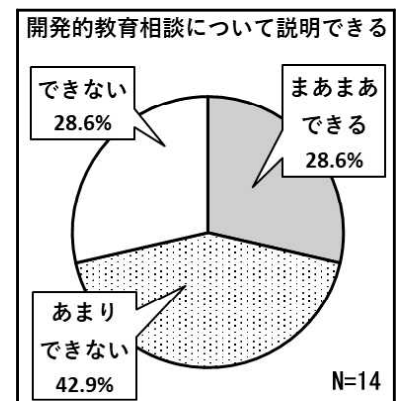


図3 職員対象

アンケート結果①

学級経営や子どもたちとの関係性に関する質問（「学級経営がうまくいっている」、「学級の生徒とふれあっている」、「生徒と信頼関係が結ばれている」等）では、どの質問においても肯定的（「とても」または「まあまあ」）な回答をした職員が全体の約7割（図4）で、関係性が良好のように見えるが、「学級の生徒の『行動・言動』で気になることはない」という質問には、全体の約8割の職

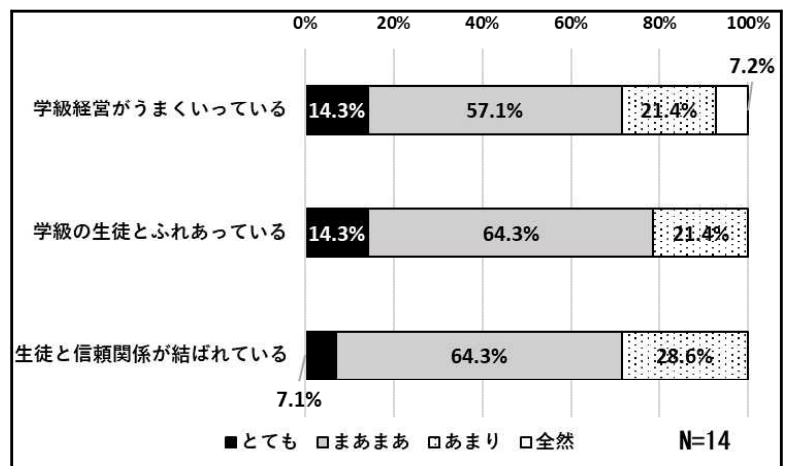


図4 職員対象アンケート結果②

員が気になることが「まあまあある」または「かなりある」と答え、具体的には「人の欠点を責めたり、人のミスをつつく」「マイナス発言が多い」「きちんと話を聞かない」などの回答があり、学級経営に不安や悩みを抱えていることがわかった（図5）。

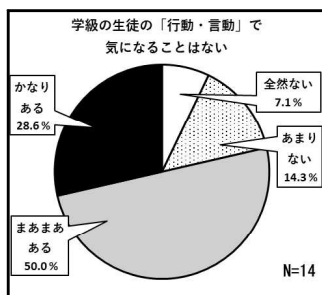


図5 職員対象

アンケート結果③

また、「生徒に身につけてほしい社会的能力」として、「受容・共感力」が1番多く、次に「コミュニケーション力」「自己コントロール力」が多いという結果になり、これらの力を育むSGEやSSTの実施の必要性を感じた（図6）。

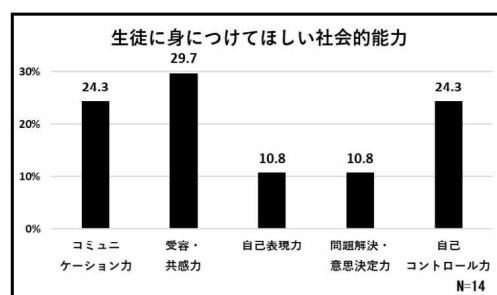


図6 職員対象アンケート結果④

「困ったことがあるとき、周りの先生に自分からすぐに相談できる」の質問には、約8割の職員が「すぐに相談できる」と答え（図7）、「困ったときにすぐに相談できる先生は」の質問には、半数以上の職員が「同学年の先生に相談する」と答えた（図8）。

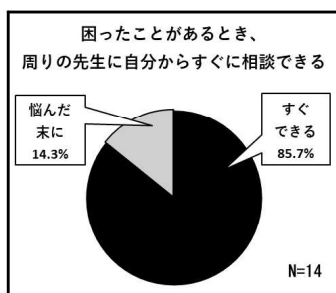


図7 チーム援助・連携に関するアンケート結果①

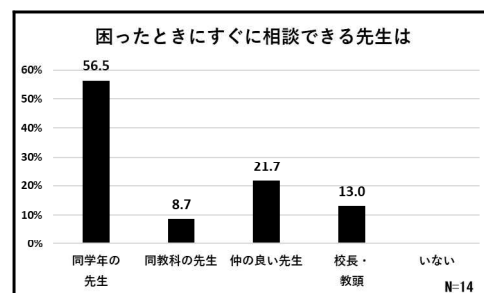


図8 チーム援助・連携に関するアンケート結果②

また、「生徒の問題はみんなで抱え、みんなで支援に取り組もうとする姿勢がある」の質問には全員が肯定的（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」）な回答をしたが、「問題が発生したらすぐに情報を共有できている」と答えた職員は約7割に留まった（図9）。このことから、1学年職員は、チーム援助・連携がしやすい環境・姿勢だが、情報の共有の仕方に課題があることがわかる。

1学年は、生徒の問題はみんなで抱え、みんなで支援に取り組もうとする姿勢がある

1学年は、問題が発生したら、すぐに情報を共有できている

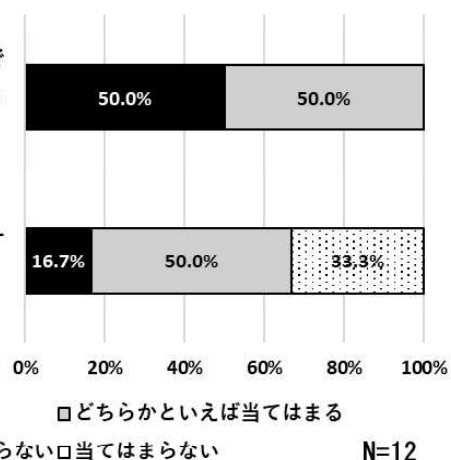


図9 チーム援助・連携に関するアンケート結果③

(2) 1学年生徒対象のアンケート結果

「学校生活は楽しい」等、学校生活・休み時間・給食時間・放課後において充実した学校生活が送れているかを問う質問に、約9割の生徒が肯定的（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」）な回答であったが、「授業中は楽しい」の質問に対してだけは約3割の生徒に否定的（「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」）な回答がみられた（図10）。

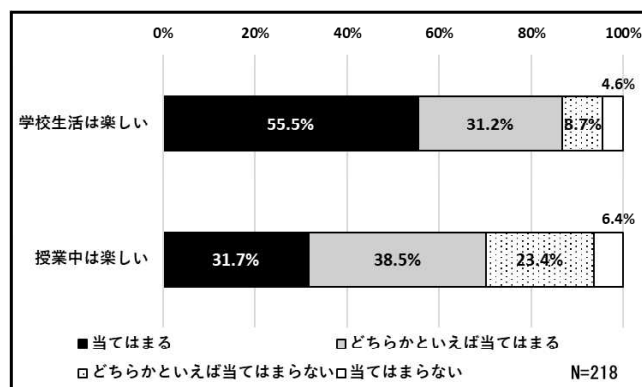


図10 学校生活に関するアンケート①

「級友との関係はうまくいっている」の質問について、肯定的な回答（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」）をした生徒は約9割、否定的な回答（「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」）をした生徒は約1割であった（図11）。ペア学習やグループ学習などをさまざまな授業に取りいれていくことで、あらゆる場面で主体的に取り組めるようになり、そのことが学習に対する苦手意識を克服することにつながるのではないと思われる。各教科・道德・学

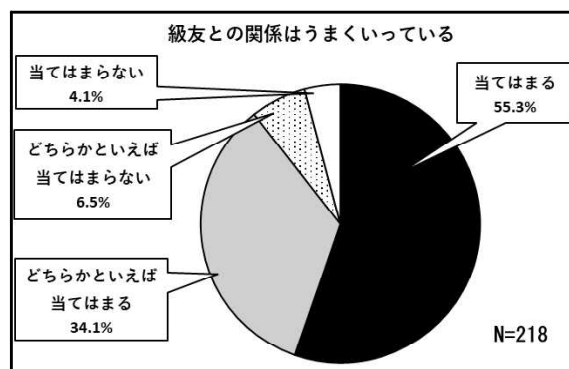


図11 学校生活に関するアンケート②

「困ったとき誰に相談するか」という問いに対し、「自分一人で解決する」と答えた生徒が、全体の65%と多く、次いで「友人に相談する」と答えた生徒が62%という結果であった（図12）。「不安や悩みを解決するスキル」を身につけることで、友人の相談にのり、励まし、元気づけることができるようになれば、友人とより深い信頼関係を結ぶことができ、充実した学校生活を送ることができるのではないと思われる。

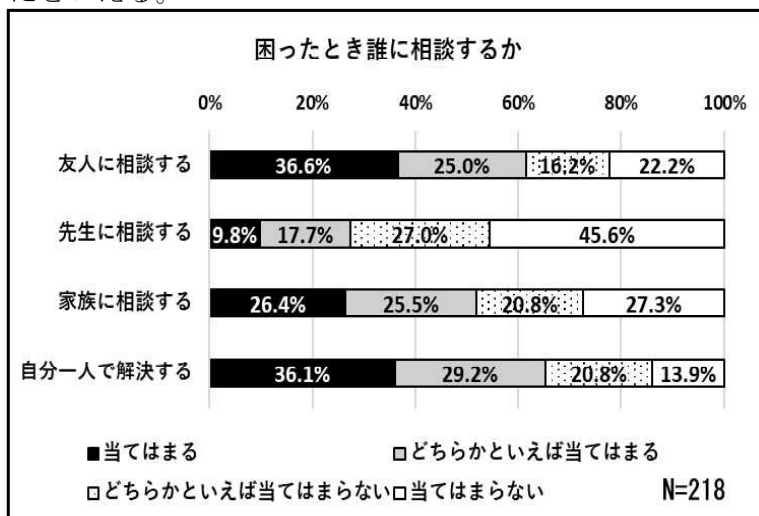


図12 学校生活に関するアンケート③

一方、「先生に相談する」と答えた生徒は全体の約3割であった。このことから、教師が生徒とのふれあいをもっと大事にし信頼関係を築くことで、生徒が気兼ねなく教師に相談できるような関係性がつくられていくと考える。

2 チーム1学年における職員研修および共通実践

(1) 1学年職員研修の実施

① 第1回学年職員研修（実施時間60分）

ア 教育相談の概要

教育相談の3つの機能として、「問題解決的教育相談」「予防的教育相談」「開発的教育相談」があること、その中でも開発的教育相談にはさまざまなグループアプローチや手法があることを説明した（写真1）。

イ 演習

SGEとして、「バースデーリング」「ジェスチャー伝言ゲーム」を行った（写真2）。また、SSTとして、「聴くスキル」や「話すスキル」を活用した「ちょいとタイム」と「あなたのことが知りタイム」を実際に体験してもらった（写真3）。



写真1 職員研修の様子



写真2 SGE演習



写真3 SST演習

ウ 学級での開発的教育相談実践の提案

各教科・特別活動・道徳の授業の導入部分などの数分でできる取組や、学級活動など1時間を使って行う取組があることを紹介した。また、1学年行事である職場体験に向けた総合的な学習の時間の取組や短学活を活用して行う「他者をほめる」取組の例を紹介し、実践の提案を行った。

エ 身につけてほしいスキルや表現方法の紹介

学級経営していく上で、教師・生徒ともに意識してほしいスキルや表現方法として、「話すスキル」「聴くスキル」「他者をほめるスキル」「ふわふわ言葉」「IメッセージとYOUメッセージ」についての説明や紹介を行った。

オ 「チーム1学年」としての職員の結束

子どもたちとの信頼関係づくりを行っていく上で、「教師間の思いを一つにしていくこと」「教師間の支え合い・助け合いが必要であること」を確認し、子どもたちのために「チーム1学年」として共通実践をしていこうと呼びかけた。また、職員の意識を高めるため、掲示物を作成して学年職員室に掲示し、特に共通実践をする日は学年主任から職員に呼びかけをしてもらった(図13)。

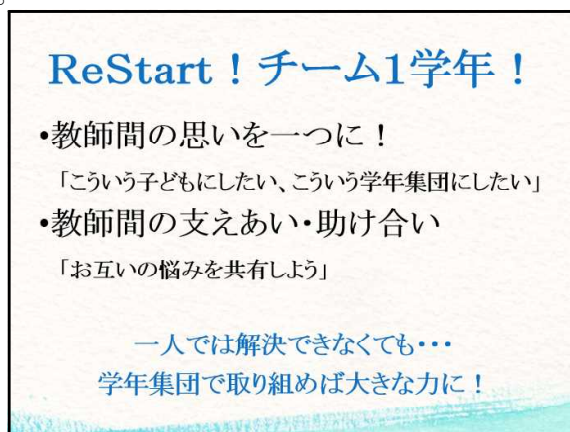


図13 「ReStart! チーム1学年!」の掲示物

② 第2回学年職員研修(実施時間60分)

学年一斉の学級活動の授業実践に向け、指導案をもとに、当日使用するワークシートやパワーポイントをを用いながら、1学年の先生方を生徒と見立て、模擬授業(リハーサル)を行った(写真4)。



写真4 模擬授業の様子

実際の授業で「生徒の不安や悩み」について考えていく部分を、ここでは職員研修として、実際に1学年職員が普段から抱えている「教師の不安や悩み」について考えてもらった(図14)。取り組みで作成した返事の手紙は、先生方が共有できるように、研修後、学年職員室に掲示した(写真5・6)。

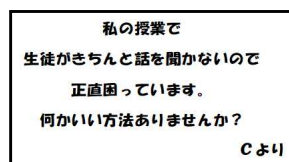


図14 教師の悩み(例)

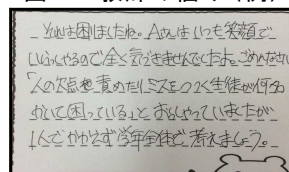


写真5 返事の手紙

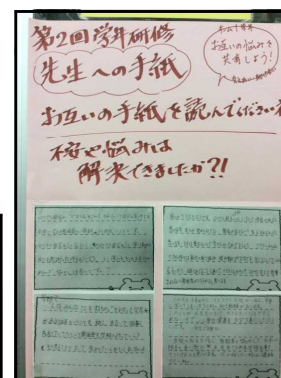


写真6 学年での共有

模擬授業後は先生方の質疑に答えたり、意見・要望を参考に授業進行やワークシートの改善を行った。

(2) 学年一斉の授業実践(ソーシャルスキルトレーニング)

① 総合的な学習の時間

1学年行事である職場体験に向けた取り組みとして、SSTを活用して「気持ちよいあいさつ・自己紹介をする」スキルについて授業を行った。

② 学級活動

第2回の学年職員研修で行った模擬授業を工夫・改善した上で、「友達を励ます・元気づける」スキルや「友達の相談にのる」スキルについて授業を行った。各学級担任による更なる授業形態の工夫や機器の活用もみられた(写真7、図15・16・17)。



写真7 一斉授業の様子

6 本時の学習		
(1) 本時の活動テーマ 『不安や悩みを解決するスキルを身につけよう！』		
(2) 本時のねらい		
「友達を励ます・元気づける」スキルや「友達の相談にのる」スキルのポイントを意識し、級友の気持ちに共感しながら、級友の抱える不安や悩みを手紙で返事をすることを通して、不安や悩みを解決するスキルを身につけることができる。		
(3) 本時の授業の工夫		
パワーポイントの指示に従ってワークシートを進めていくことで、SSTの基本的な流れに沿って、スムーズにトレーニングを行わせる。		
(4) 本時の展開		
	活動の順序	指導上の留意点 ○生徒の反応 □教師の手立て
導入 5分	1. 悩みを抱えたとき、誰かに励まされたり相談した経験はありますか。励ましてもらったとき、相談にのってもらったときのことを思い出してみよう！	○『友達に大丈夫と声をかけてもらった』 ○『友達に話を聴いてもらった』 ○『友達にアドバイスしてもらった』 ○本時のテーマを確認する。
	「悩みを解決する」スキルを身につけよう！	
展開 35分	2. インストラクション (目的を伝える) 「友達を励ます・元気づける」スキルと「友達の相談にのる」スキルのポイントを表にまとめよう！	○それぞれのスキルのポイントを知る。 □今日のゴールは「自分のことのように友だちの話を聴いて気持ちに共感し、アドバイスできるようにする」ことだと説明する。 ※上手な言葉がかけられなくても、そばにいて気持ちを受け止めることが大切であることを伝える。
	3. モデリング (手本を見せる) Tさんは…(中略)…悩んでいます。あなたならAさん、Bさん、Cさん、誰に相談したいですか？	○相談にのることと人間関係が深まり、一緒に考えることで協力し合うことの基礎を学ぶ □共感することや他者を尊重することへの理解を深めながら相談にのるときポイントを指導する。 ※相談にのるスキルの3つのポイントから考えるよう指摘する。
	4. リハーサル(練習する) ①級友から手紙で悩みを打ち明けられました。あなたなら級友の悩みをどう解決しますか。級友に手紙で返事を書いてみよう ②グループで手紙を読み合ひましょう。どう感じましたか。	○「友だちを励ます・元気づける」スキルと「友だちの相談にのる」スキルのポイントを意識して、返事を書く。 □解決策を出してあげること大切だが、それ以上に悩みを共有し一緒に考えること自体が大切であると伝える。 ○多様な考えがあることを知る □励ますすばう、励まされるほう両方の気持ちに注目させる。 ※あたためたい言葉をかけることの大切さを感じさせる。
まとめ 10分	5. フィードバック (振り返る) 今日の授業のまとめを行う	○相手の気持ちに寄り添う姿勢が大切だと気づく。 □相手の立場に立って気持ちに気づくことが大切だと伝える
		※ワークシート記入 ■発問に関心を持ち、意欲的な発言や姿勢が見られるか ＜関心・意欲・態度＞
		※ワークシート記入 ■「友達を励ます・元気づける」スキルと「友達の相談にのる」スキルのポイントを確認しようとする ＜知識・理解＞
		※ワークシート記入 ■Cさんは聴くスキルを使って聴き、共感の態度や言葉があることに気づく ＜思考・判断・実践＞
		※ワークシート記入 ■多様な意見を聞き、よりよい学校生活を送ろうとする意欲や意欲が高まる ＜関心・意欲・態度＞
		※ワークシート記入 ■今日学んだスキルを今後の学校生活に活かそうとする ＜関心・意欲・態度＞

図15 学級活動指導案(本時)

(3) その他の学年共通実践

① 学級掲示物の作成・配布および掲示

「聴くスキル」「話すスキル」「他者をほめるスキル」
「ふわふわ言葉を活用しよう！」計4枚の大型掲示物を作成、全学級に配布し、生徒への説明を行った後、教室内に掲示してもらった(図18)。これらの掲示物は、授業の中で振り返ったり、職場体験等の行事前に確認する際にも活用している。

② 称賛スキルアッププロジェクト「ふわふわの木を育てよう！」の実施

称賛(他者をほめる)スキルの向上をねらいとしており、第1回職員研修において共通実践を提案した際に、職員から出たアイデアをもとに計画した取組である。学校生活1日を通して級友のよいところを見つけ、帰りの学活で発表する。発表する文章は前もって葉・花・実の形の付箋紙に記入しておき、学活終了後、学年掲示板に貼る(写真8)。文章は掲示物「他者をほめるスキル」
「ふわふわ言葉を活用しよう！」を参考に記入する。

「不安や悩みを解決する」スキルを身につけよう！

1年()組()番
氏名()

<インストラクション>
*不安や悩みを抱えたとき、誰かに励まされたり相談した経験はありますか。励ましてもらったり、相談にのってもらったときのことを思い出してみよう！
*「友達を励ます・元気づける」スキルと「友達の相談にのる」スキルのポイントを表にまとめよう！

「友達を励ます・元気づける」スキル	「友達の相談にのる」スキル

※両方のスキルで共通するポイントは何ですか。だね！大切なことなんだ！

<モデリング>
Tさんは友人と映画を見に行く約束をしていたが、急に原宿の練習試合が入ってしまいました。前から見たいと思っていた映画。大会前の大切な練習試合。どっちに行こうか悩んでいます。あなたなら、Aさん、Bさん、Cさん、誰に相談したいですか？

どっちにも行きたいから困っているんだよね。わかるな！早くもさっと悩むとさうよ。

どっちも、困ったね。

<リハーサル>
①級友から手紙で悩みを打ち明けられました。あなたなら級友の不安や悩みをどう解決しますか。スキルのポイントを確認して、級友に手紙で返事を書いてみよう！→別紙
②グループで手紙を読み合ひましょう。どう感じましたか？

さん…
さん…
さん…

<フィードバック>
*不安や悩みを解決するスキルのポイントがわかりましたか？(○を記入)
よくわかった。・わからなかった。・わからなかった。・まったくわからなかった
*今日学んだスキルについて、感想を記入してください。

図16 授業ワークシート①

様

より

図17 授業ワークシート②

ふわふわ言葉を活用しよう！

ほめる言葉	すてきだね さすがだね 強弱になるね 今度、教えてね アイスは かんぱね 気に入らないで 次はできるよ 応援してるよ 元氣出してね ポイント	それいいね 上手だね すごいね 見習いたいな がんばってるね 大すきだよ 一緒にやろうよ ドンマイ その調子だよ 一緒にがんばろうね
励ます言葉	すごいね やったね 頑張ろう うれしいね いいね ○○さんがいてくれてよかった あめがどう 助かったよ ○○さんのおかげだよ ○○さんの気持ちはうれしいよ	楽しいね よかったね 頑張ろう かっこいいね かわいいね

称賛スキルをアップさせよう！

図18 学級掲示物の例



写真8 「ふわふわの木を育てよう！」

3 職員研修および共通実践の振り返りアンケート結果

第1回・第2回学年職員研修において、参加したすべての職員から「理解できた」との回答が得られた。また、学年一斉授業においても、実践したすべての学級担任から「授業をスムーズに進めることができた」との回答が得られた（表1）。

また、「開発的教育相談を年間を通して計画的に取り組めるといい」「1学期・2学期始めまでにやっていたら、より予防的開発的なものになる」「特活リーダーを中心に通年できたらいい」「今後もこのようなトレーニングは、教員は是非身につけていくべきだ」との意見や要望もあり、次年度の計画を考えていく上で参考となる記述が多数みられた。

表1 職員の感想（抜粋）

第 一 回	○とてもわかりやすいプレゼンだった。具体的な実践例をたくさん提示していただき、学級経営を今後頑張ろうという気持ちになった。教育相談の大切さ、学級経営のコツ等、担任にとって学びの多い研修だった。 ○人間関係づくりが苦手な生徒たちも増えている中、すごく効果的な手法を学べたので、ぜひ学級・学年でも活用したい。
第 二 回	○来週の授業を進める上でのイメージがつかめてよかった。 ○「励ます・元気づける」スキルということで、自分たちもなかなか寄り添う言葉や温かい言葉がかけられないので、生徒にさせる前に自分が勉強になりました。 △生徒が手紙を書く(表現する)ことができるのか心配、(特に男子は)思いはあるが見えてくるのか、やってみないとわからない。
一 斉 授 業	○事前に確認していたこともあり、自分的にはスムーズにできた ○手紙にすることで、自分事として書きやすいと思いました。 ○書かれた手紙の内容のいくつかを全体でシェアしたり、多様な意見を聞くことができた。 ○子どもたちは個人差がありましたが、じっくり考えてやさしい言葉を吟味しているように見えました。ふざけていた子も友達のあたたかい言葉に触れて、感想をたくさん書いていました。

4 次年度年間計画への位置づけ

今回の研究で実践してきたチーム1学年の取組を、管理者・特活主任・学年主任の確認のもと、次年度の学級活動の年間計画に組み込んでもらった。

教師と生徒または生徒同士の信頼関係づくりや基本的なスキル・言葉づかいの早期定着を図るため、S G Eや「聴くスキル・話すスキル・ふわふわ言葉」は年度初めの4月に設定し、中学校生活に慣れてくる7月に「不安や悩みを解決するスキルを身につける」S S Tを、9月には「他者をほめる」スキルを学ぶ時間をそれぞれ設定した（表2）。

表2 次年度の学級活動年間計画（一部抜粋：4月～9月）

1学年				(1)・・・学級や学校の生活づくりに関すること (2)・・・適応と成長及び健康安全に関すること (3)・・・学業と進路に関すること (4)1:キャリア(人間関係形成) 2:キャリア(自己理解) 3:キャリア(課題対応能力) 4:キャリア(プランニング能力) ●・・・総合学習との関連				※ノートは教科書に準ずる
月	時	題 材 名	①	②	③	④	指 導 目 標	備 考 テキスト
1 学 期	4	1 さあ、中学校生活のスタートです	◎	○	○	1	・中学校生活について考え、新しい生活に希望を持って楽しく過ごす姿勢をつくる。 ＜構成的グループエンカウンター＞	P2,3(p66,67)
		2 中学校で学ぶこと	○	○	◎	1,4	・中学校の学習と生活について理解を深め、意欲的に臨む姿勢をつくる。 ＜聴くスキル・話すスキル・ふわふわ言葉＞	P4,5(p66,67) 掲示物
		3 学級の組織と自分の役割	◎			1	・学校生活に必要な係や組織を理解し、組織づくりに意欲を持つ。 ・学級の目標作りを通じ、話し合いの手順やルールを学び、活動への意欲を持つ。	P6,7
2 学 期	7	13 不安や悩みを解決するスキルを身につけよう！	○	◎		1,2	・悩みや不安は誰にでもあることを知り、その解決方法を理解して、解決に意欲を持つ ＜ソーシャルスキルトレーニング＞	ワークシート パワーポイント
		14 1学期を振り返って「長い休み」に自分の力をのびよう		◎		3	・1学期の学校生活を反省し、2学期の生活よりよいものにしようという意欲を育てる ・個人としての学級生活、学習状況はどうであったか、反省させるとともにこれからの生活に向けて意欲を持たせる。	学年資料
	8	16 学級生活を見つめよう	◎			4	・学級生活の改善の必要性を知り、伸長・改善への姿勢を方策を持つ。	P32,33
2 学 期	9	17 自分を知る、友達を知る	○	◎		1,2	・個性の概念を理解し、自分や他人の個性の理解に関心を持つ。 ＜他者をほめるスキル・ふわふわ言葉＞	P22,23,p75,76 掲示物
		18 定期テストに向けて		◎		3	・学ぶことの意義を理解し、積極的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・定期テストに向けて学習計画を立てることで目的意識を持たせる。	学年資料

5 考察

職員の事後アンケートにおいて、学年職員研修に関する質問（「教育相談に関する職員研修を実施してよかった」「教育相談について理解が深まった」とチーム1学年の共通実践に関する質問（「開発的教育相談に関する共通実践を実施してよかった」）について、すべて肯定的な結果が見られた（図19）。職員研修や共通実践を実施してよかった理由に「生徒同士の信頼関係づくりに役立つ」「学級経営上とても勉強になった」「生徒たちへのアプローチの方法などが学べた」「学級間の差がなく指導できる」「進んでいく方向（ベクトル）が1つになった」「生徒同士が相手の良さを認め合えるようになった」などを挙げ、教育相談への理解の深まり、共通実践による子どもたちの変容の実感、そしてチーム1学年としての意識の高まりがみられた。職員研修や共通実践を行うことで学級経営の自信および協働性の向上につながったと考えられる。

また、チーム援助・連携に関する質問「生徒の問題はみんなで抱え、みんなで支援に取り組もうとする姿勢がある」については実践前後ともに肯定率が100%と変わりはないが、「当てはまる」の回答が、5割から7割へと増え、「問題が発生したらすぐに情報を共有できている」においては実践前後で肯定的な回答が7割から9割へと変化がみられた。1学年の職員体制に改善がみられ、チーム力が向上している様子がうかがえる（図20）。

一方、生徒の事後アンケートにおいては、「学んだスキルを実践・活用するようにしている」の質問に肯定的な回答した生徒が約8割、特に「学んだスキルを職場体験で実践することができた」の質問には9割の生徒が肯定的な回答をし、共通実践の成果が見られた。継続した実践・活用で更なるスキルの向上を図ることができると思われる。

チーム1学年による開発的教育相談に関する共通実践が、子どもたちの「コミュニケーション力や受容・共感力」実践・活用の向上に結びつき、さらに職員の「チーム援助・連携の向上」にもつながったといえる。

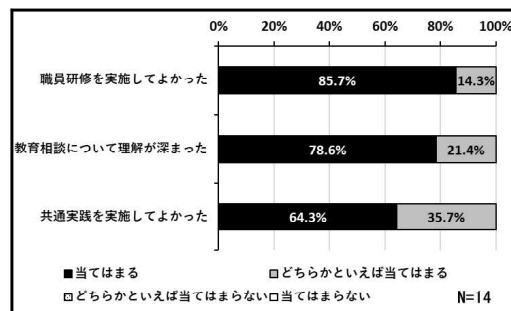


図19 職員の事後アンケート結果

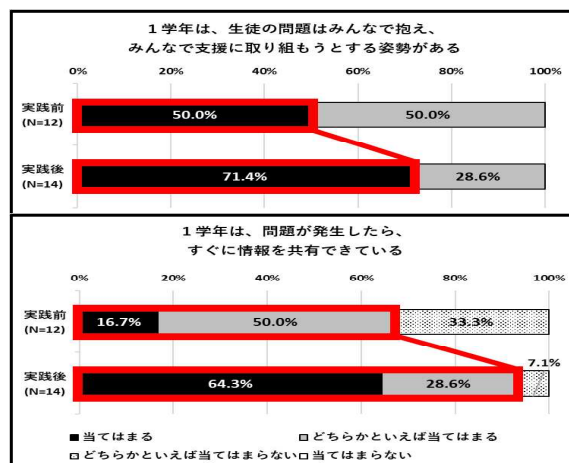


図20 チーム援助・連携の実践前後の比較

IV 成果と課題

1 成果

- (1) 職員研修によって教育相談への理解が深まり、授業等で取組を実践することができた。
- (2) 開発的教育相談に関する取組を共通実践していく中で、教師間での相談・協議の機会が増え、1学年職員のチーム力（チーム援助・連携）が向上した。
- (3) 実践した取組を、意義を考えながら次年度の学級活動の年間計画に組み込むことができた。

2 課題

- (1) 学年で共通実践する前に職員同士の共通理解や授業研究が必要であり、行事や各教科との関連を図りながら、学級活動の年間計画にそって学年会や学年研修の計画を行う必要がある。
- (2) より効果的な開発的教育相談を行うには、1学年の取り組みだけではなく、2学年、3学年と継続して行うことや学校全体で取り組むことが必要だと考える。

〈参考文献〉

- 石黒康夫・星雄一郎 2018 『自律心を育む！生徒が変わる 中学生のソーシャルスキル指導法』 ナツメ社
- 文部科学省 2017 『中学校学習指導要領』
- 一般社団法人日本アンガーマネジメント協会 2016 『子どもと関わる人のためのアンガーマネジメント 怒りの感情をコントロールする方法』 合同出版
- 田中和代 2015 『ワークシート付きアサーショントレーニング』 黎明書房
- 岩澤一美 2014 『クラスが変わる！ 子どものソーシャルスキル指導法』 ナツメ社
- 諸富祥彦・会沢信彦・赤坂真二編 2011 『チャートでわかる カウンセリング・テクニックで高める「教師力」第1巻 学級づくりと授業に生かすカウンセリング』 ぎょうせい
- 諸富祥彦・水野治久・梅川康治編 2011 『チャートでわかる カウンセリング・テクニックで高める「教師力」第5巻 教師のチーム力を高めるカウンセリング』 ぎょうせい
- 春日井敏之・伊藤美奈子編 2011 『やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる教育相談』 ミネルヴァ書房
- 文部科学省 2010 『生徒指導提要』
- 國分康孝・國分久子・他10名編 2004 『構成的グループエンカウンター事典』 図書文化
- 滝充編 2004 『改訂新版 ピア・サポートではじめる学校づくり 中学校編 「予防教育的な生徒指導プログラム」の理論と方法』 金子書房
- 吉澤克彦編 2001 『構成的グループエンカウンター・ミニエクササイズ50選 中学校版』 明治図書
- 國分康孝 1981 『エンカウンター 心とこころのふれあい』 誠信書房

〈参考URL〉

- 沖縄県教育委員会 2018 『平成30年度版 学校教育における指導の努力点』
https://www.pref.okinawa.jp/edu/gimu/gakuryoku/gakuryoku/documents/h30_shidounodoryokuten.pdf (2019年2月最終アクセス)
- 文部科学省 2017 『中学校学習指導要領解説総則編』
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/___icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1387018_1_3.pdf (2019年2月最終アクセス)
- 文部科学省 2017 『中学校学習指導要領解説特別活動編』
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/___icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1387018_13_2.pdf (2019年2月最終アクセス)
- 文部科学省 2018 『平成29年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について』
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/10/___icsFiles/afieldfile/2018/10/25/1410392_2.pdf (2019年3月最終アクセス)